

山本俊夫先生を悼む

岡 本 健 一*



昭和23年3月京都大学理学部化学科を卒業された山本俊夫先生は、民間会社に就職後、昭和26年1月から京都学芸大学（昭和41年4月京都教育大学に名称変更）に奉職され、以後、平成11年3月関西外国語大学教授を退任されるまで、ずっと「研究と教育」の道を歩んでこられました。昭和34年4月に京都学芸大学助教授、同年11月理学博士（旧制京都大学）を取得、昭和41年7月に京都教育大学教授に就任。昭和42年には東京大学海洋研究所白鳳丸 KH-67-1 次航海乗船研究員として北部太平洋の海洋化学的研究に従事、51年にも KH-76-1 次航海乗船研究員としてインド洋東部の地質地球物理及び海洋化学的研究に従事されています。この他、昭和39年8月～40年8月米国ジョンズ・ホプキンス大学海洋学教室で海洋

化学の研究に従事、昭和55年7月～9月米国ブリガムヤング大学客員教授として植物学教室で藻類中の微量元素分布に関する生物地球化学的研究に従事され、日本化学会を始め日本海洋学会、日本藻類学会、日本地球化学会、日本水産学会、日本微量栄養素学会、日本分析化学会、日本理科教育学会等で研究成果を発表されております。

主な研究業績としては、①「海藻に関する生物地球化学的研究」で、海藻中の灰分、ナトリウム、カリウム、カルシウム、マグネシウム、リン、マンガン、鉄、クロム、亜鉛、コバルト、ニッケル等の含有量についての定量分析や海藻中の元素分布の規則性についての研究で、特に「海洋生物と海水中の各元素の存在比と、海洋における各元素の平均滞留時間という2つの概念を、主に山本研究室で測定された実験値を相互に比較することを試み、海藻に関して各種類の各試料を通じて明瞭な逆の対数的相関が存在することを指摘されたことです。その他の研究業績としては、②「高分子物質の分析」、③「ビスマス酸ナトリウムを用いる新酸化法」、④「希アルカリ元素の分離精製」、⑤「理科教育に関する研究」等があると思います。

本（財）海洋化学研究所として特筆することは、山本俊夫先生の「海藻に関する生物化学的研究」

*関西外国語大学短期大学部元教授

の業績に対して、昭和61年4月第1回海洋化学学術賞（石橋賞）を受賞されたことです。この賞の受賞についてはとても感激されていたこと、それまで先生の研究を支えてきた多くの研究者や学生への感謝の心、山本先生の恩師である石橋雅義先生へのご恩の心が今も心に強く残っております。

平成元年3月京都教育大学教授を定年退職されてからは、関西外国語大学教授として着任され、「環境科学」や「海洋科学」等の授業を担当され、平成11年3月同大学を退職されました。

私と山本先生の関わりは、昭和41年4月、先生が助教授になられ、藤田君（元京都教育大学理科教育教授）、岡寺君（元大阪市立中学教諭）、と岡本が先生の卒業論文生として指導を受けた時から始まったように思います。夏休みに入ってすぐ、和歌山県加太海岸や友ヶ島で海藻試料を採取したこと、実験室で夜遅くまで卒論実験をしたこと、実験結果がうまくいかず先生から優しく指導を受けたことが思い出されます。卒業後、数年して山本先生ご夫妻に結婚の仲人をしていただきました。その後、先生から「卒論生の指導を手伝ってくれないか」と頼まれたことが先生との繋がりを深くしたように思います。当時、私は大阪市立の高校で理科の教員をしていたのですが、夏休みには京都教育大学付属久美浜臨海実験所へ毎年行かせていただき、学生諸君と寝食を共にして実験や英語論文の講読を楽しみました。山本先生の論文生には、先生の温厚なお人柄や卓越した指導力を慕ってきた学生が多かったように思います。事実、私は先生とご一緒のときが楽しく、非常に有意義であったように思います。学会発表論文の作成準備に関わったことや学会で発表のお手伝いをしたことが、つい昨日のことのよう懐かしく思われます。また、山本先生の研究協力者として、白鳳丸のKH-75-3次航海、KH-77-3次航海の乗船研究員として北西太平洋および日本海の海洋化学的研究に従事させていただいたことも非常に励みとなり、研究に大いに役立ちました。

私が大阪の市立高校を定年退職して関西外国語大学へ勤務できたのも先生のお陰です。一緒に1年間勤務し、「環境科学」や「教職課目の演習」を担当して12年間勤務することができました。

山本先生、先生はいつまでも私たちの思い出と心の中に、しっかりと生きております。どうか安らかに眠りください。そして、これからも天国から私たちをお導きください。